

カタママイマイ *Lepidopisum conospira* (Pfeiffer)

【選定理由】

河畔林環境を中心に生息する特殊な生態を示す陸産貝類である。生息適地がきわめて限定的であり、分布範囲も狭いため、愛知県下でも国内の他地域と同様に稀な種である。河畔林環境は、一般的な認識では役立たない雑草地程度に思われるため、開発行為には殆ど抵抗感を持たれない場所である。しかし、本種にとっては、きわめて重要な生息環境であり、このような場所は愛知県内では護岸整備をされるなどして減少傾向にある。矢作川上中流域の河畔林にまとまった個体群が見られる程度の生息域の狭い種であり、洪水などの増水時に流され、無事漂着した個体が各場所の氾濫原に分布範囲を広げる性質があると考えられている。ただし、本種の生息に適した氾濫原の環境自体が失われつつあるので、今後も安定的な本種の個体群維持が可能なのか、強く危惧される。愛知県下では、絶滅の危険性の高い種と考えられる。

【形態】

成貝は、殻長 4.7~5.2 mm、殻径 5.6~5.9 mm 程度の丸みを帯びた低円錐形の小形種である。殻は薄く、淡い茶褐色の殻皮が殻表を覆う。殻皮には小さな鱗状の突起物を生じ、殻表全体に認められる。成貝の殻口外唇は薄く、反曲する。臍孔はきわめて小さいが、深く明瞭である。雄性生殖器官には矢囊や粘液腺を持たず、鞭状器は細く短い棒状、陰莖鞘部分はきわめて太く陰莖本体の 4 倍ほどの幅を有する。

【分布の概要】

【県内の分布】

岡崎市での生息が報告されたのが最初の記録である(木村, 2000)。その後、豊田市の矢作川上中流域の河畔林の数箇所にまとまった個体群の生息が報告される(川瀬・他, 2012)程度である。

【世界および国内の分布】

韓国に分布が知られるほか、日本国内では関東以西の本州、四国・九州にも分布するとされる(湊, 2014)。

【生息地の環境／生態的特性】

河川河岸の河畔林の土手などで、林床にササ類やススキ類が茂る様な場所や、クズなどの植物が繁茂する草地に生息する。山地の自然林などに生息することはなく、低地の河川上中流域などの氾濫原を主な生息場所とする種である。食性については植物食で、分解の進んだ落葉などを食べて生活していると推測される。同時に幼貝と成貝が確認されるので、成熟する(成貝)までに複数年を有すると推測される。柄眼目の種はいずれも雌雄同体であるが、本種には、雄性器官を欠失させる *aphally* の一型である、雄性器官が萎縮した状態の *hemiphally* を示す個体が多い。これは、氾濫原に棲む生態的特性とも関連すると思われるが、交尾の機会を殆どなくし単一個体による自家受精のみで多数個体を増殖させ個体群を増大させる手段と考えられ、不安定な環境を生息適地とする本種の生存戦略であろうと推測される。変動の大きな環境に生息し、かつ、分布密度の低い本種に適した繁殖手段と思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

現時点の愛知県内では、矢作川上中流域の河畔林にまとまった個体群が確認される程度である。河岸の氾濫原は、護岸整備などの人の都合で開発が行われやすく、雑草地も整地され易いため、本種の生息適地は次第に減少傾向にある。もともと分布範囲も狭い種であるために、本種の個体群維持は難しい状況に向かっている。生息場所はきわめて狭く局所的であり、生息地となる河畔林や氾濫原の開発行為などがあれば直ちに個体群消滅につながる。

【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される地域の自然環境を維持することが重要である。本種の生息する、限られた環境を開発しないことと保全することが最も重要である。

【特記事項】

稀に、河岸近くの畑地や庭の植え込みなどの人為的な環境に出現する場合も報告されるが、河岸の荒地環境に生息する本種の生態的特性に起因すると考えられる。おそらく、増水時に水路などを經由して漂流し分散した個体が偶然、耕作地付近など人為的な環境にたどり着き、個体数が増加した場合と推測する。この様な例により外来種の懸念を持たれる場合もあるが(川瀬・他, 2014)、本種の生態的特性と考えるべきであろう。

Helix conospira Pfeiffer, 1851 は、以前は *Ensis* マイマイの学名と考えられていたが、モーレンベーク・バンデービジル (1992) がタイプ標本を図示して以降、本種の学名へと変更された。

【引用文献】

- 川瀬基弘・波多野 順・田上正隆, 2014. 岐阜県初記録のカタママイマイ, かきつばた, (39): 45.
 川瀬基弘・村瀬文好・早瀬善正・市原 俊, 2012. 矢作川上中流域の河畔林に生息する陸産貝類, 矢作川研究, (16): 11-26.
 木村昭一, 2000. 愛知県より初めて採集されたカタママイマイ, かきつばた, (26): 11-13.
 湊 宏, 2014. カタママイマイ, p.364. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.
 モーレンベーク・バンデービジル, 1992. *Helix conospira* Pfeiffer, 1851 の模式標本について, ちりぼたん, 23 (1): 4-6.

【関連文献】

- 波部忠重, 1958. 日本産陸産貝類の解剖学的研究 (8) ツシマケマイマイとカタママイマイ, Venus, 19 (3-4): 165-168.
 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類, 豊橋市自然史博物館研究報告, (21): 31-43.
 川瀬基弘・大内陽子, 2010. 豊田市平戸橋町で発見されたカタママイマイ, かきつばた, (35): 41.

(早瀬善正)



岡崎市西阿知和町青木川右岸, 1998年7月19日, 木村昭一採集